

## 高校生が政治活動でアピール

五月五日、「世界の子どもの平和の像15周年のつどい」が東京・江東区にある「東京大空襲・戦災資料センター」で開かれました。

「核兵器と戦争のない二十一世紀を」と設立にむけて活動した「東京高校生平和ゼミナール（平ゼミ）」のOBや、現在のメンバーなど六十人が参加しました。像の前での集会では平ゼミの高校生三人が「高校生の政治活動を制限・禁止し、

政治活動を届け出制にすることに反対する高校生アピール」を発表しました。

平ゼミは、学び、交流する高校生の平和学習サークルで、毎年広島や長崎、沖縄で全国高校生平和集会を、今年三月には「憲法・核被災・沖縄を学び交流する高校生平和のつどい」を開催。これまで「憲法9条にもとづいた世界平和の実現を」などのアピールを発表してきました。

今回のアピールは十八歳選挙権実現にあたり、文科省による高校生の政治活動を制限・禁止する通知と、校外での政治活動の届け出制を認めた見解に反対し、

届け出制は「政治はよくわからない」「投票しても変わらない」と一歩を踏み出せない心に蓋をする、と指摘。文科省、各教育委員会、学校に日本国憲法や子どもの権利条約で保障する「思想および良心の自由」「集会・結社の自由」「請願権」の尊重を求め、未来をつくるため「多くの高校

生と学び、考え、行動し続けます」と宣言しています。広島、岐阜、愛知の平ゼミがこのアピールの趣旨に賛同しています。



平和の像の前でアピール